

(別紙)

成果の説明書

(氏名)	矢野修一	(学部)	経済学部
1 重要事項			
◇翻訳（共訳）への取り組み； E. Helleiner, <i>States and the Reemergence of Global Finance: From Bretton Woods to the 1990s</i> , Ithaca and London: Cornell University Press, 1994. の翻訳作業を共同で進めた。近日出版予定。			
◇高崎経済大学産業研究所編『デフレーション現象への多角的接近』（日本経済評論社、2014年3月25日刊）； デフレーションに関わる共同研究の上記成果報告書に「デフレ下日本の経済構想—オルターナティブの素描」を寄稿。			
◇高経大学生と高経附生徒による「高大コラボゼミ」の企画および指導； 2010年度、2011年度、2012年度に続き、日本企業のケーススタディを柱とする「高大コラボゼミ」を企画し各種指導を行った。経営支援NPOクラブの支援を仰ぎつつ、学生・高校生による富士フイルム光学デバイス事業部、日産自動車、ライオン、富士ゼロックス、電気化学工業、三井化学の各社訪問・インタビューをアレンジし、2013年9月14日の成果発表会につなげた。 成果発表会当日は、高経大・高経附の現役大学生・高校生のほか、コラボゼミを経験した両校卒業生、高・大教職員、保護者、一般市民、マスコミ関係者、高経附進学希望の中学生親子等、数百名が出席した。 高大コラボゼミの取り組みは、昨年度同様、マスコミでも取り上げられた。			
◇『高経大+高経附 高大コラボゼミ 2013年度成果報告書』（2014年3月3日刊）の編集； 2013年度の高大コラボゼミに取り組んだ大学生・高校生の感想を中心に、高経大学長、高経附校長、高・大それぞれの連携担当教員、成果発表会来場者のコメント、成果発表会資料などを成果報告書としてまとめた。関係各方面に配付されたほか、2014年度のオープンキャンパス等でも配られる予定。			
◇高崎経済大学矢野ゼミナール卒業論文集『経済学研究年報』第21号（2014年3月25日刊）の監修および編集； 1994年3月創刊以来、『経済学研究年報』の監修・編集を継続。2013年度も総勢16名の卒業論文の執筆を指導し、450頁超の卒業論文集を完成させた。印刷・製本された卒業論文集は、本人のほか、保護者やゼミの後輩らに配付された。			

2 その他の事項

◇高崎経済大学附属高校「学校評議員」としての活動；

学校評議員として、高経附の運営に関する評議に加わり意見を述べた。

◇高崎経済大学附属高校「顧問」としての活動；

高経大と高経附の各種高大連携事業をアレンジするとともに、高経附が文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」に採択されるべく尽力し、実現にこぎ着けた。